

嶽の三岳寺

創建

唐の留学から帰朝した最澄(伝教大師)が延暦7年(788)比叡山に延暦寺を建てる。三岳寺はその末寺として、大同年間(806~810)に開かれたという創建説が伝わっている。垂坂の観音寺、高角の大日寺、藤原の聖宝寺らも天台宗の古寺であった。山の向う近江の湖東三山も天台宗の寺であり、近江の天台宗の影響を受け、この地に創建されたものであろう。

立地

鈴鹿山系の雄峰の鎌、御在所、国見を三岳として崇め、この三山は三岳宗教の修行場であった。国見岳(1080)の直下、俗塵を離れた鳥居道山の南に面した平坦地に寺があった。その近くには名瀑があり、寺の正面に御在所の北壁、藤内壁の絶景を望み、修験道場として恰好の聖地であった。

中本山

菰野の正眼寺、金剛寺、高角の大日寺、垂坂の観音寺、桑名の仏眼院、北勢地方の天台宗の寺院をその傘下においていた。

寺領

音羽村はその寺領であった。字名を岳道、油田、鐘撞田、三滝田、聖堂、毘沙門田などの地名が残る。寺への年貢米は、菰野富士山麓の鳥居道口(桜のえん場)の渡しが行われた。

鳥居道山

寛文2年(1662)の山論文書に「右山は鳥居道と申し候、滝は丈、三尺壺寸の石不ご座候」とある。

滅亡

永禄11年(1568)織田信長の北伊勢侵攻軍に攻められて焼き討ちに遭い、ことごとく灰燼に帰し滅亡する。

堂宇

権現堂・薬師堂・不動堂、鐘撞堂があったといわれている。

遺物

享和元年(1801)岡村泰政方の記録。

○不動尊石像 台座に「願主香賢阿闍梨 康正二年十二月二十四日」と刻まれている。

○手洗石 一部破損しているが今も現地に残る。

○石段 蔵王権現堂の基壇が、1尺巾で1間ぐらいの石段石が無数に散乱している。

嶽の仏像

嶽の三岳寺では、信長の兵火に遭ったとき、密かに仏像だけは持ち出されて菰野村側で長らく秘匿されていたようである。それを江戸時代の貞享3年(1686)湯の山平松山温泉寺として菰野藩主土方雄豊が再興する。

本尊薬師如来坐像

高 63.8cm、一木造り。(鎌倉後期)

天部像

2体 高さ61cm。(平安後期)

不動尊像

1体 火焰の裏に「文龜三年九月一日、冠峰山三岳寺覺信作」の墨書がある。末寺であった西菰野、正眼寺の本尊薬師如来三尊仏は平安後期の仏像である。

千草の三岳寺

千草忠基が出家して頓乗と称し、道場を開く延宝5年(1677)に浄安寺となり、宝永8年(1711)ごろ冠峰山三岳寺と改めた。一方、菰野は享保5年(1720)比叡山の末寺として山号、寺号を許され、これも冠峰山三岳寺と称した。